

2001年5月23日

CS放送成人番組倫理委員会
事務局

アメリカ視察旅行報告書

(2001年4月22日～28日)

【総論】

CS成倫は2001年4月22日(日)～28日(土)の一週間の行程により、この期間ラスベガスで開催中のNAB2001を視察し、また、アメリカアダルト産業のメッカといわれるロサンゼルス近郊の chatsworth に存在する業界団体フリー・スピーチ・コアリション(Free Speech Coalition、言論の自由協会)を訪問するツアーを希望メンバーにより実施した。

CS成倫としては非公式ながら設立以来、最初の海外視察旅行であったが、ちょうどブロードバンドをベースとした各種の技術が発表され、他方では放送のデジタル化が進行するアメリカのIT産業の現況を視察する非常に良いタイミングのツアーとなり有意義な視察旅行となった。

また、業界団体としてアメリカの同業団体を訪ねる初めてのツアーともなった為、フリースピーチコアリションにおいては非常な歓迎を受け、会長自らが質疑応答に対応し、その後見学の先導に立ってくれるという特別の配慮の許、実り多い成果を収めることが出来た。

以下、その内Free Speech Coalition 訪問レポートを掲載することとする。

Free Speech Coalition 訪問レポート (2001年4月26日)

ロサンゼルス北東、車で一時間位の chatsworth という工業団地の中にある Free Speech Coalition, Inc. (非営利団体だが会社組織となっている)はアメリカにおけるアダルト産業の同業者団体である。

4月26日(木)の午後CS成倫一行は、NHK放送文化研究所の海部一男氏と共にこの事務所にFSC会長のウィリアム・R・ライオン(WILLIAM R. LYON)氏を訪問した。アダルト・ビデオ・ニュース(AVN)社のマーク・カーンズ(MARK KERNES)氏を交え、ビル・ライオン氏との間でフリー・スピーチ・コアリションの役割を始め、当面の問題点など巻末に付記した10項目に亘る質疑応答を行った。

概要は下記の通りである。

(1) FSCの組織及び役割について

FSCは米国内のアダルト産業を構成するアダルト・ビデオ・メーカー、販売業者、インターネットのウェブサイト、通販業者、タレントエージェント、ダンスクラブ、作品監督、弁護士、小売業者、個々のタレント、従業員、等々幅広い会員の拠出する会費と寄付金によって運営されており、今まさに全米に支部を伸ばしつつある。2001年4月のFSC機関誌〈Free Speech〉を読むと、2001年3月ヴァージニア州メリーランドで50社以上の業者(ヴァージニア州とコロンビア州の業者)が集まってビル・ライオン氏を招き、同地区の支部の旗上げをしたことが紹介されていた。

FSCの主な仕事の一つは各州及びワシントンの議会に対するロビー活動を通じ

て業界各社の利益を守るという点にある。また、各種の教宣活動や訴訟事件のサポート活動も主要な任務である。我々の訪れた日もF S Cの事務所の中には“Only you can prevent censorship”（あなたが一人一人の力だけが検閲制度を止められる！）という標語の入ったカレンダーが貼られていて、我々もそれをお土産にもらった。

過去1年間、F S Cは児童オンライン保護委員会と対決して子供アニメポルノ法における自らの立場を養護するために闘って来た。

アメリカにおいては子供と見えるキャラクターが性行為をしていれば(アニメであっても)犯罪に該当する。日本からのアニメにはキャラクターが非常に若いルックスのものが多く、18才以下とみなされれば法律違反になる可能性がある。また、若しコスチュームで18才以下を装っていれば、取り締まり官は児童ポルノ違反と判定することが出来る。F S Cはこのような事態に反対して闘っているのである。

(2) アメリカのビデオ産業全体の動向について

ビデオ販売、レンタルビデオ、CATV共に需要は堅調である。また、インターネット経由のアダルト番組販売が伸びつつあることが注目される。

全体のマーケットの規模としては、

- ・ビデオのレンタル及び販売が 40億ドル (5,000億円)
- ・インターネット・サービス 15億ドル (1,900億円)

昨年度、アメリカでは11,000本のアダルトビデオが制作されたが、いわゆるオリジナルものは、そのうち3,000本だけで残りはすでに出来たビデオの“編集もの”であった。

(3) 米国のアダルト産業が直面しつつある問題の最大のもは、ブッシュ政権になって性的に保守的な政策に変ったということであろうか。クリントンの時代には“猥褻判定”を受けたケースはあまりなかった。米国では20km離れた都市には、もうアダルトの取り締まりに対する態度が違うというくらいに地方によってアダルトに対する考え方が違っている。しかしながら一般的に性的な番組に対する反対活動は根強いものがある。特に、中西部ユタ、オハイオ州あたりでは反対派の動きが活発である。全米で性的な表現物に対する反対団体は100,000位存在している。

政治と宗教の分離が行われつつあるが、ここ10年くらいは宗教的保守派が力をつけている。そもそもが猥褻(obscenity)についての規定が曖昧であるため、保守派がそれに乗じて活動する余地が大きい。(注)

* (注) アメリカでは1973年いわゆるミラー判決なる判決が最高裁で行われ、猥褻に関して3項目の基準が明らかにされている。

- (a) 平均的な人が、その時点での地域社会の基準を当てはめて、その表現内容が、全体的に見て好色的な興味に訴えているかどうか。
- (b) その表現内容が、適用される州法に具体的に定義されている性的行為をあきらかに不快な方法で描写、あるいは叙述しているか。
- (c) その内容が、全体的に見て、まじめな文学的、芸術的、政治的、あるいは科学的な価値を欠いているか。

(4) ケーブルテレビの動きとして注目されるのは“アデルフィア(Adelphia)”の動きである。元々はフィラデルフィアのCATV会社だったが今や全国的なネットワークになっている。しかし経営者が保守的なクリスチャンである為、ネットワーク内でアダルト番組を流すのを止めてしまった。

アデルフィアはロサンゼルス郊外(ビバリーヒルズなど)を含む大きなネットワー

クを持っているが、アダルトを止めたことで年間2,000万ドル以上の損失を蒙ったと推定されている。しかしこれは例外のケースで大部分のケーブルはもちろんアダルト番組を流している。

アダルト番組に対する要望はCATV視聴者内で強いことが確認されている。

(5) アメリカのアダルトビデオメーカーがビデオを作るに際して、注意しなければならないコードのようなものは存在するかどうかの質問について。

一般的にアメリカ国内で適用されるコードのようなものは存在しないが、州によってその判定基準は違っている。

有力なビデオメーカーであるVCA PICTURESなどはインハウスで作る場合、それなりの社内基準を持っているようである。(我々はこのインタビュー後、VCA社を訪問した。) 獣姦、チャイルドポルノ、ソドミー(異常セックス、アナル、同性愛他)などは宗教的理由から排除されている。人種間セックス(インターレイシオ)については黒人と白人の組合せはミラー判決によっても猥褻として例示されている。(アジア人はそうではない)

(6) プロダクションはビデオを作る場合は、その用途によって幾つかのバージョンを制作するのが普通である(通常は以下のバージョン)

- ・店頭販売用ビデオ ハードコア(挿入のアップを含む)
- ・CATV向け 挿入場面なし
- ・衛星放送向け 多少の場面を含む

(7) アメリカでは要するに聖書に反する事項、例えばソドミー(同性愛、アナルセックス他)的なことに対する抵抗が大きいのが特色である。日本ではモザイクをかけて出したりもするが、アメリカ人はモザイクについては理解出来ないであろう。

(8) 日本からビデオを売り込むのであれば、挿入場面を出せない以上、お金をかけて美しい女性を出演させること。そしてエキゾチックなロケーションを使用することなどが、肝要なことと考えられる。

インターネットの“プライベートクラブ”のサイトの中では“日本人”という項目で日本人のアダルト映像を見ることも出来る。このようなアダルト系サイトは米国内でも人気があり、ヤフーで69,000件、MSNで50,000件あるが、最近反対が多く半分に減らされたということを知っている。

このインタビューの後、両氏の案内で近くにアダルトビデオのプロダクションVCA Pictures

を訪問した。同社のジェーンハミルトン(JANE HAMILTON)女史の案内でアダルトビデオの編集、ダビング、パッケージ等の工程を見学した。また、同社の関連会社のインターネット・コンテンツ・プロバイダーを一社見学することが出来た。

(了)

